

令和2年度第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和2年8月28日（金）18：30～20：00

【場 所】 浜益支所（旧議場）

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) ロードマップ

【出席者】 10名（14名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	宮田 勉	○	委員	佐藤 晃一	○	委員	水崎 理	○
副会長	渡邊 隆之	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	寺山 広司	
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸	○	委員	門脇 弥	
委員	久慈 貞子	○	委員	赤間 香子		委員	羽立 裕子	○
委員	鳴海 翔	○	委員	渡邊 真奈美	○			

（ファシリテーター） NPO法人ezorock

代表 草野武史

スタッフ 崎川哲一、水谷あゆみ

（支 所） 畠中支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）、
宇野市民福祉課保健福祉担当課長（兼はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
地域振興課 船橋主査
生涯学習課 菊地主任

（事務局） 佐々木地域振興課長、柿崎主査、小貫主任

（企画経済部） 中西次長（厚田浜益担当）（扱 企画課長）

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
- 4 協議事項

①移住・定住の取り組みについて

事例から学ぶ「浜益をフィールドとした取り組みについて」

- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

2 会長あいさつ

【宮田会長】

本日はお忙しいなか、会議に出席いただきありがとうございます。お盆が過ぎましたが本州並みの厳しい残暑となっております。

前回の会議はテーマとなっております「山村留学」について、元浜益中学校長の川村先生から講義をしていただきました。また、当協議会の委員でもあります、水崎校長先生のお話も交えて浜益中学校の生徒数の状況や浜益への熱い思いを語っていただきました。

前回欠席された方もおりますが、子供の減少に伴う、地域への影響や今おかれている浜益中学校の現状は、日常私達が感じている以上に厳しく切迫していることがわかりました。

このことを広く地域の人にわかっていただき、現状認識を共有し地域を巻き込んだ取り組みにさせることはできないものか、このような事で今日は山村留学だけにこだわらず、移住・定住・交流等とテーマを広げ、おそらく本協議会では初めてではないかと思いますがワークショップ形式で会議を進めたいと考えております。

これまでの一連の会議の中から地域づくりの新しいきっかけが生まれてくることを期待しています。会議はNPO法人ezorockの方々に指導いただきながら進めていきます。よろしくお願ひします。国道沿いの田も豊かに色づいてきております。また、鮭定置網漁の型入れ作業も終わりました、いよいよ9月1日の解禁を待つばかりとなっております。台風が来ないように、そして作業の安全を祈りながら、来る豊漁の秋を地域の皆様と待ちたいと思っております。

3 報告事項

なし

4 協議事項

(1) 移住・定住の取り組みについて

【事務局】

今回は前回からの継続議題である「移住・定住」の取り組みについて、NPO法人ezorockの皆さんに司会進行をお願いし、ワークショップ形式で行います。

まず、「地域課題解決に向けたロードマップ」というスライドをご覧ください。事務局としてはこのロードマップのイメージで進めていきたいと考えています。

今テーマとなっているのが、山村留学の導入を発端として幅広く考え可能性を含めて議論しましょうということによって現在に至っています。

5段階のステップを念頭に置きながら、これから皆さんと議論を深めていきたいと思っています。

アイデアの絞り出を今年の10月、第8期委員の皆さんの丁度任期折り返し地点までに詰め、折り返し後の1年間ではその中から目標設定、プランニングというように進めていきたいと思っております。令和クエスチョンになってますが、ここは皆さんと議論したものを実行に移す考えでおります。

今日だけではなく、次回など少しずつ議論を深めていきますので、このロードマップも念頭に議論に参加していただきたいと思っております。

NPO法人ezorockを紹介します。3年ぐらい前から、果樹園やイチイの木などをフィールドに、環境学習や自然体験などをテーマとして子供や都市部の学生と共に浜益区と都市部をつなぐ活動を区内で展開しています。

特に今年は旧職員住宅（浜益ベース）を拠点として果樹園の支援に6月～7月に取り組んでいただいたところです。

【ezorock】

（草野）

「団体名聞いたことある」とか「最近若者ちょこちょこ来てるなあ」とか見聞きした人いらっしゃると思いますが、代表をしている草野と申します。よろしくお願いします。

スタッフの自己紹介もさせていただきます。

崎川君は樹木医です。北海道で一番若い樹木医です。たまたま石狩で活動しているうちにイチイの木に出会うきっかけができて、樹木医になったタイミングでイチイと出会っています。その縁でスノーシューツアーなどに関わらせていただいております。

水谷は、都市部から浜益に興味のある若者を見つけ、連れてくる担当です。私と水谷はそういう担当で、私は大学の先生もやっています、授業の中で浜益の話題をいっぱいして、一緒に行く人見つけたりするのを私と水谷で行っております。

ワークショップでという説明がありましたが、今日はワークショップというより意見交換するような気楽な感じで進めたいと思います。

私達は色々な自治体から依頼を受けて、こういう会議の進行をやっています。

今日はどんな流れかというところですが、前回のキーワードで山村留学が出てたとお聞きしまして、あと移住定住というのもテーマだとお聞きしております。

そういう意味でもう2年前ぐらいに福島の子供たちを実は浜益で受け入れしてもらっておりまして、3泊4日の日程でまちの中をぐるぐる歩きながら体験させて頂いた事があるのですが、まずはそちらが山村留学のモデルかなあと考えてます。

移住定住の話につなげると、その中に参加していた学生ボランティアの子が実は今浜益に一番足を運んでいる学生です。

というように、浜益に関わりを持った子達のその後のストーリーみたいなことも少しお話できたらなあと、担当が崎川だったので、スクリーンでお見せしながらお話させていただきます。

そのあと3人ぐらいずつグループになっていただき、お話聞いて皆さんどう感じましたかということで、感想をお話する時間をとりたいと思います。

そのあと全体で共有する時間や質問があれば私達がお答えできることはお答えするという流れで、少しだけ意見交換する時間を設けていきます。

まず団体自体が謎だと思うのでご説明します。

1) ezorockについて

- ・NPO法人とは
- ・エゾロックの歴史について
- ・ロックフェスのごみ問題について
- ・得意分野は人を集めて何かをすること。若者+〇〇の取り組み
- ・胆振東部地震の災害ボランティア活動について
- ・福島児童の受け入れの経緯について

2) 福島の子供たちの受け入れプログラムについて（報告）

- ・資料参照

（崎川）

子供達に、とってもいい効果があった3日間の滞在でした。たった3日でしたが色々な顔を見せてくれました。

それは浜益の人の懐の深さというか、子供達がどんどんリラックスして、本当の顔を見せてくれるというか、一人一人との思い出を作ることができました。

スクリーンには映っていませんが「ゆーみん」と呼ばれている学生ボランティアが実はこの時に裏方で参加していて、現在ではその子が今一番浜益に通っています。彼女にとってこれが浜益との出会いであり、今大ファンになって通うようになっています。

ほかにもこの活動のおかげで自然ガイドになった子もいますし、ほかの自然学校のスタッフになったりなど、浜益の経験が自分の自信になったり、ここの経験を経てまちの人と関わることへの魅力を見出して仕事に就いた子など、本当にこのたった3日間だけで「こんなに変わるんだ！」

って僕自身も今ずっと関わっているんですが、力のある地域だなんて思った3日間でした。

(草野)

子供達を大自然のなかにただ放り込んでも、こういう体験ができるかということではなく、何が大事かということ、そこに住んでいる人達と触れるという事が大事なんです。

よく自然学校というと自然に放り込んだら成長するだろうみたいに、1970年代は大流行りだった時期もありますが、今は変わってきていて、むしろ農村とか漁村とか自然の近いところで暮らしている人達と触れることが価値を生むというように、やはり暮らしが大事になっています。

暮らしている人達と会えることが大事で、団体として浜益ファンが増え続けている状態はなぜかということ、ほかの地域ともたくさん関わってはいるのですが、行ってもそこに住んでいる人達とお話ができない地域が実際にたくさんあります。

それは地域の特性だったり、きっかけだったりはもちろんあるんですが、浜益は人と触れられる地域だから価値がぐっと際立って、お話していただいたり、食べ物を提供していただいたりとか、そこに住んでいる人と触れられる事が大事なんです。

子供達や大学生ボランティアや私達にとっては特別な日ですが、必要な事は皆さんの日常に触れるということで、面白い話としては、ニシンのウロコが車の中に1枚だけ落ちてただけで臭いということをお前柿岡さんから聞いて、そういう事を私達は知らないんですよ。

たぶん浜益の皆さんの常識だったり、あと冷凍庫、皆さん相当大きくないですか？それが都会に住む子達にとって興味があったり、つまり暮らしなんです。

冷凍庫の中身見て何がおもしろいと思うかもしれませんが、それがすごく面白いんですよ。

地方にお邪魔した時に皆さんのように受け入れてくれるところが実は札幌の近郊でいっぱいあるかということ実はそんなに無く、活動場所を探していた時に佐々木さんや柿崎さんから紹介があって、浜益で福島児童とウォークラリーをやった時に、こんなにたくさんの人が顔を出してくれるまちがあるんだというぐらい感動しました。

そこで何か僕達にもできることないかなあという思いが強くなってきて、こういう関わり方になってます。そういう意味では僕達の中でファンが増えてきているので、皆さんと一緒に混ざりながらできることがあればやっていけたらという思いを持ってここに立たせてもらえたというか、そういう感じの気持ちでいるという状況になっています。

福島の児童の林間学校のような取り組みと、そこに関わった人達が今どうなったかという話をさせていただきました。先ほどの「ゆーみん」という子なんですが、支所の階段のところに手書きの新聞が貼ってあるんですけれども、「浜益日記」あれを書いているんです。

あれを突然自主的に書き始めたんです。最初パソコンで作っていましたが、手書きの方がよくないか？って提案したところ、手書きで書き始めて勝手に一人で3号まで出しています。

それを貼っていただいて、エゾロックのメンバーを連れて浜益支所訪れると「え？あの日記ここでもこんなふう貼られているんだ！」と僕たちの仲間はみんなびっくりするんです。

というような事も起きます。

3) 小グループで意見交換

(草野)

話が長くなってしまいましたが、率直に今の話を聞かされてどんな感想をお持ちになったのか気になったポイントとか少し周りの方とディスカッションをしてください。最近よくザッソウと
いうことを大事にしています。雑談の中から相談になったりします。相談して下さいという^{かしこ}畏
まってしまうので、お話ししましょうというアプローチで気が付いたらアイデアやそういう話題
になっているというのが、一番ごく自然だと思っています。

～ ディスカッション ～

4) 全体共有(発表)

- ・まちの人を分け隔てなく受け入れることができる。
- ・自然など外の人を惹きつける魅力がある。
- ・子供達がいないと寂しい。
- ・子供達の声を普段あまり聞かないから、声があると何やっているのかと外に出る。
- ・地元でも知らないことがある
- ・果樹園でバイトしていたが、エゾロックのスタッフと一緒に作業した時助けられた。
- ・この地域で子供が騒ぐ声は珍しい。そういう活動も情報発信してほしい。
- ・外から見ないとわからないこともある。いきなり移住定住は難しいがまずは身近なところから
- ・食べ物、星空がキレイ、山など魅力が沢山ある。
- ・情報発信で来訪者が増えたらいい
- ・都市部の子供と地元の子供達を混ぜた活動してみたい
- ・中学生スポーツ大会で凄い記録を出した。自然の中で遊んでいるから基礎体力があるのでは？
- ・中学校だよりにQR付けて発信してます。
- ・生徒数少ないけど、先生も一緒になって、サッカーしたりオンライン授業も早い段階で実践したり、浜益ならではの取り組みを色々工夫しながら実施している。

～ 雑談 ～

【ezorock】

(草野)

私達はあくまできっかけだと思っています。皆さんでこのような感じで話し合ってもらえたらと思います。もしよければ、学年レクとかに大学生を混ぜて活動できたらとも思いました。

私達職員ではなくて、実際に参加した大学生や若者がどういう感想を持ったのか、そういった意見を聞きたいということがあれば、是非お声掛けいただきたい。

今日は私達の活動をお伝えする機会を頂き感謝いたします。ありがとうございました。

【宮田会長】

ありがとうございました。

このような会議は我々なれておりませんので、引き続きご協力いただければと思います。

これからまた、このような会議をさせていただきます。

5 その他

(1) 地域おこし協力隊の募集について

- ・ 佐々木地域振興課長から報告
1名の応募あり

(2) 旧適沢コミセンの一部活用について

- ・ 佐々木地域振興課長から報告
プロポーザルの結果及びその後の方策案

(3) 川下・柏木地区の新しい集会施設の意見交換会の開催について

- ・ 佐々木地域振興課長から報告

6 次回の開催日程について

- ・ 第4回協議会は、今のところ9月下旬を予定している、後日改めて連絡する。

7 閉 会

令和2年 9月17日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉